

# 点群からインフラ3次元化

増大する既存インフラ構造物の維持管理に3次元モデルの活用を推進しようと、土木構造物の補修・補強にかかわる調査設計などの専門会社5社が「M-CIM研究会」を発足させた。補修技術設計（本社・東京都江戸川区、中馬勝己社長）が中心となり、3次元レーザー計測による点群の活用を切り口に、国土交通省が進める維持管理段階のCIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）を後押しし、自らのビジネス領域も確立していきつつある試みだ。

補修技術設計の呼び掛けに賛同したのは、MAEDA OFFICE（名古屋市）、ジビル調査設計（福井市）、山陽ロード工業（岡山県津山市）、コスモエンジニアリング（東京都江戸川区）。調査設計に加え、点検や補修・補強工事などを手掛ける専門会社が手を組んだ。5社は任意団体として研究会を立ち上げ、7日に初会合を開く。

国土交通省では、2016年度をめぐりに試行の成果を反映したCIMの導入ガイドラインを策定する。これにより公共事業におけるCIM活用の枠組みが整い、維持管理段階についても3次元活用の道筋が付けられる。試行対象などの導入案件は調査・設計の川上段階から施工、維持管理へと順を追って3次元モデルデータの活用を進められるが、既存する膨大な土木構造物は図面類の3次元モデル整備がCIM活用の前提条件になる。

## 補修技術設計ら5社が研究会



補修技術設計が取得した中ノ島橋（京都）の点群

事務局も務める補修技術設計が保有する3次元計測機器と、取得した点群データをモデル化する専用ソフトを使い、技術的な検証を進める。

研究会は、発足時の5社が実働会員として、現場での検証を展開。今後は活動を推進する賛助会員や3次元レーザー計測技術、3次元モデリングに興味を持つ個人会員にも参加を呼び掛ける予定だ。

研究会は、構造物の補修・補強に向けた調査設計段階で現況を把握するツールとして採用が進みつつある3次元レーザー計測技術に着目し、これを既存構造物の3次元モデル化の糸口としてとらえ、業務体系の枠組みを整える。事も見えてきそうだ。

施工者のゼネコン

